

被災者のマナー 2

被災時の混乱と助け合い

東北大学防災科学研究拠点

阿部恒之(文学研究科心理学講座)

本多明生(電気通信研究所)

ジュターチップ・W.(文学研究科心理学講座)

前回の報告



2011-3-25

避難者の節度あるふるまい

自発的な助け合い

海外からの称賛

パニック・デマの被害・加害への新たな懸念

⇒災害後の暮らしの安全を守るための
「マナー」の研究

まずはきちんとした記録を残す

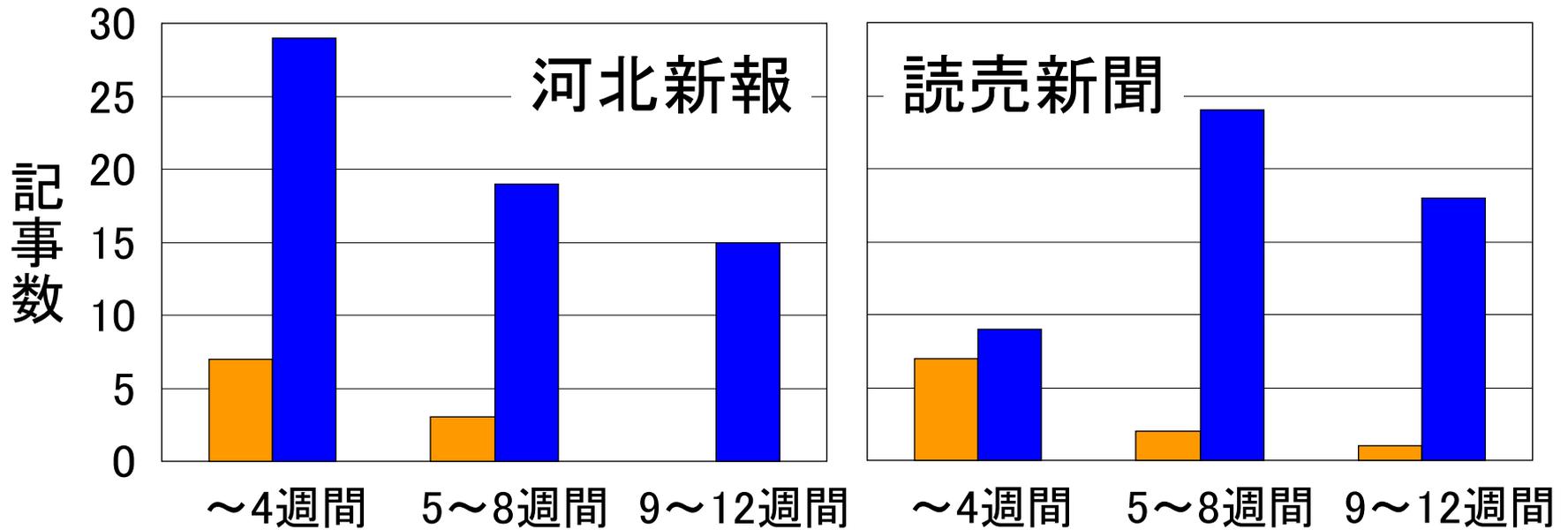
1. 新聞・雑誌・TVの記事収集

2. 日記などの記録の収集

3. 特異体験の収集

4. 被災者感情の研究

行列



期間

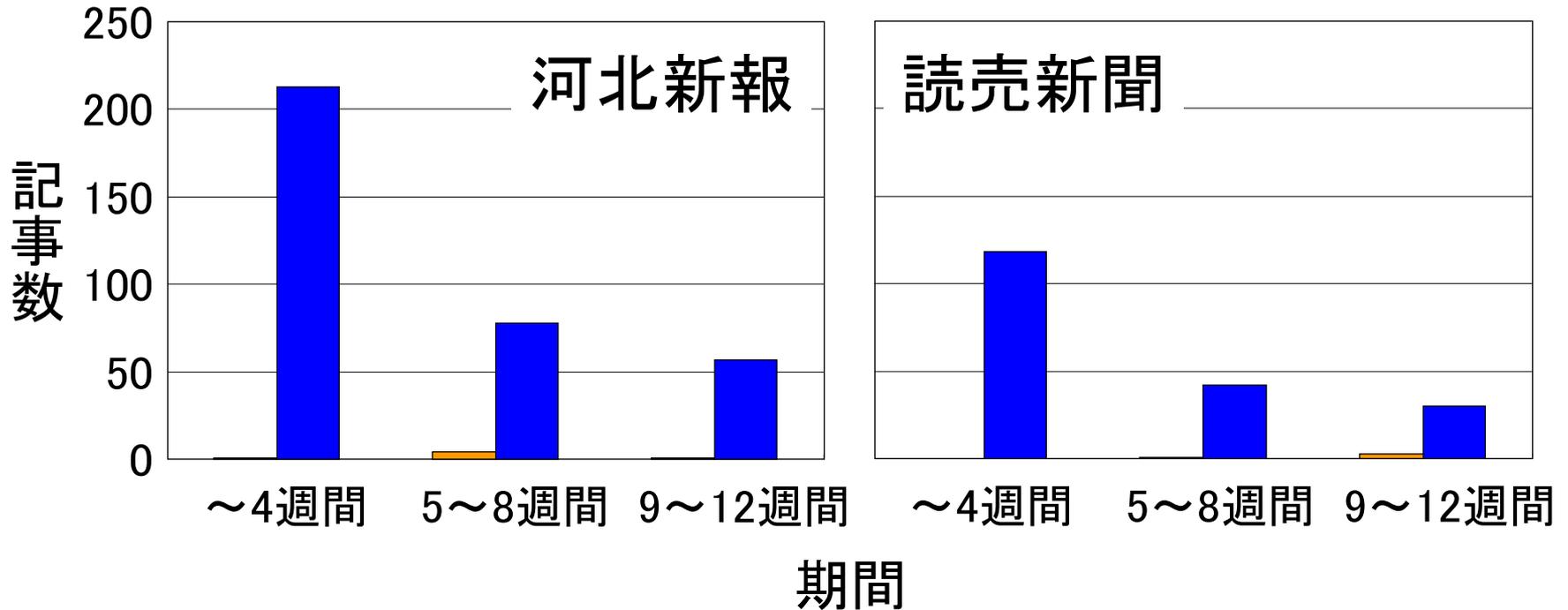
TDL・祭り・ipad2

河北・読売の記事の変化

データベース(河北新報KD・読売新聞ヨミダス歴史館)にて、震災∩行列を条件として検索。以下同様。

ガソリン

- 阪神大震災
- 東日本大震災



今回の震災に特徴的。

I山さんの日記より

3月20日(日)

入浴をしてさっぱりする。

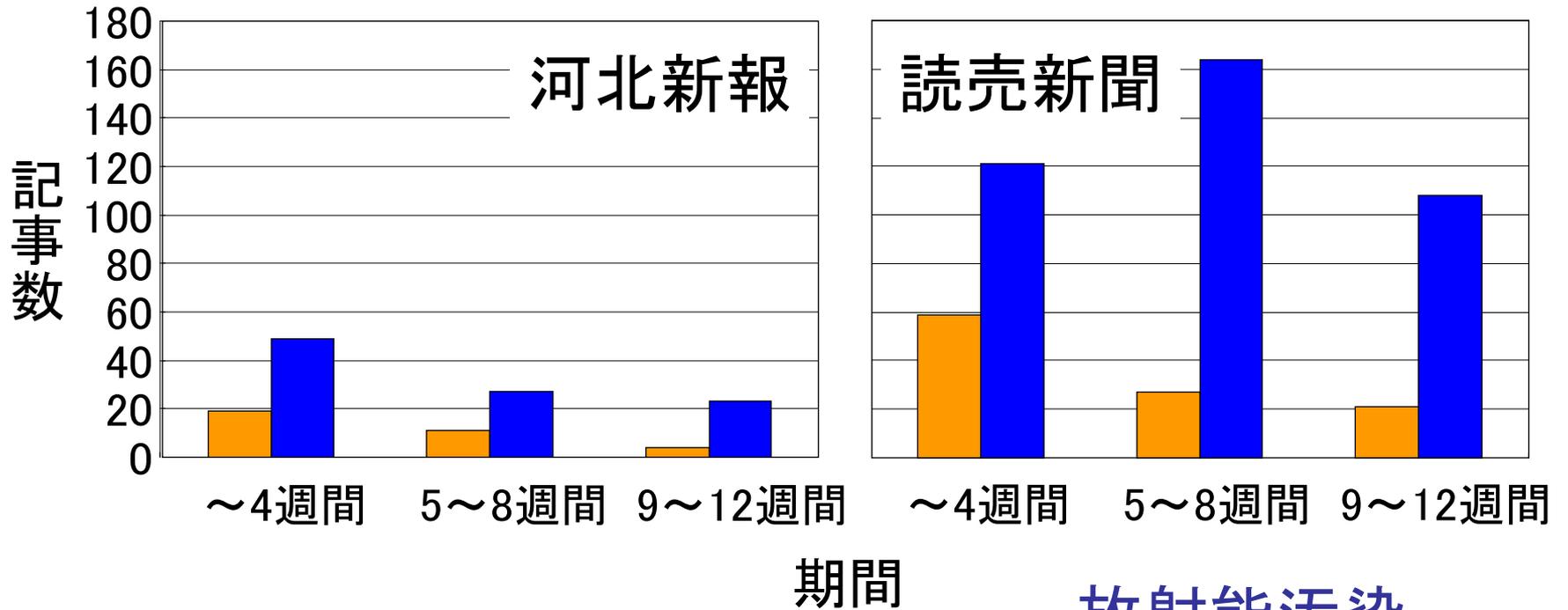
近所の国道沿いのガソリンスタンドが明日の朝に給油をしてくれるらしく、今夜から既に**車の行列。数千台に及ぶ**と思われる。我が家も倣い、行列に車を停めて一旦帰宅する。

3月21日(月)

給油。朝7:30過ぎに昨夜停めておいた車に乗り込む。**4時間待ちで現金¥3000分の給油**をしてもらう。

4月1日 にはGSの行列が消えた(自分の日記より)

食料品



放射能汚染

S井さんの日記より

3/23

カワ4行でやる。

10点@1人! お米、魚ソー、カワのめん、カニムネアム、

パンやウーハン。D-ソングでカワリキイト。大収穫!!

16:00 帰宅。ニヤヤを着替える。あとく下も。

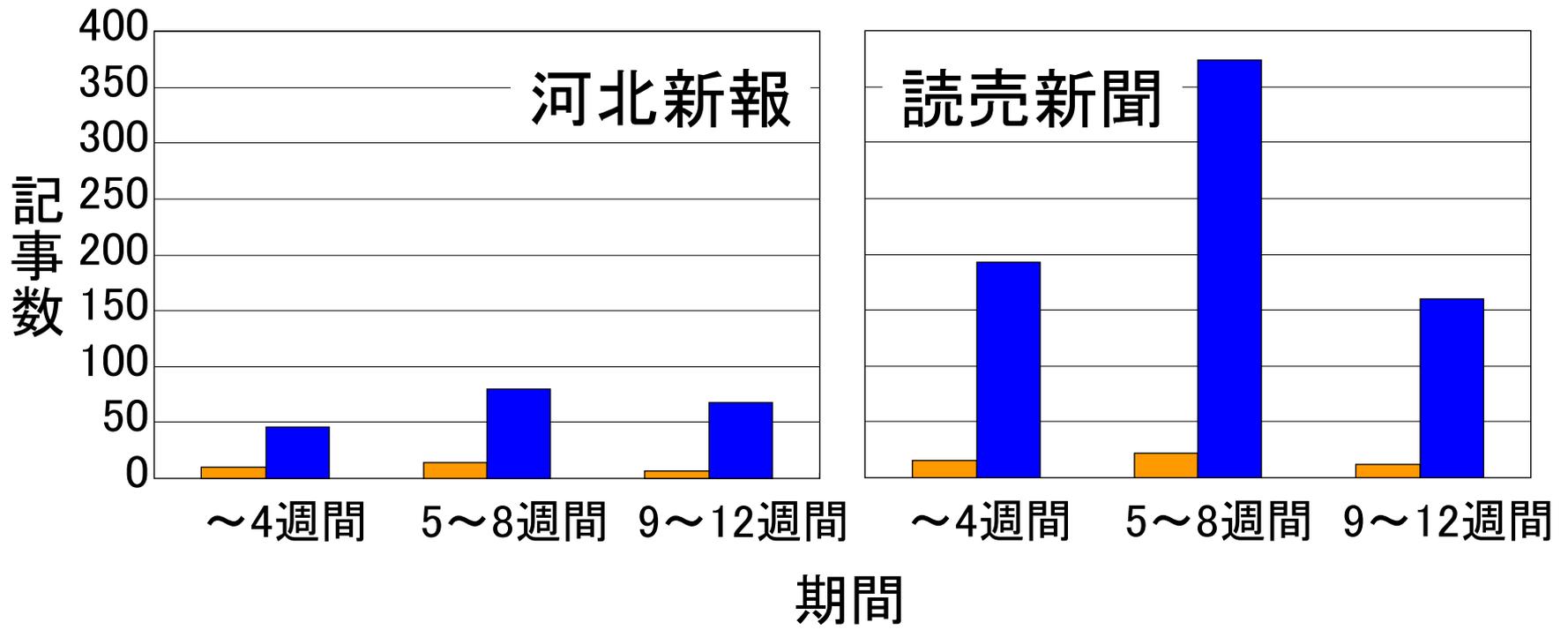
Tel。ヤマトリ(皮、アホ)とこぼし。

PM 9:00 前寒(27ト)にハッ! 目眩了。PM 11:00 目覚め

26:00 目覚め。

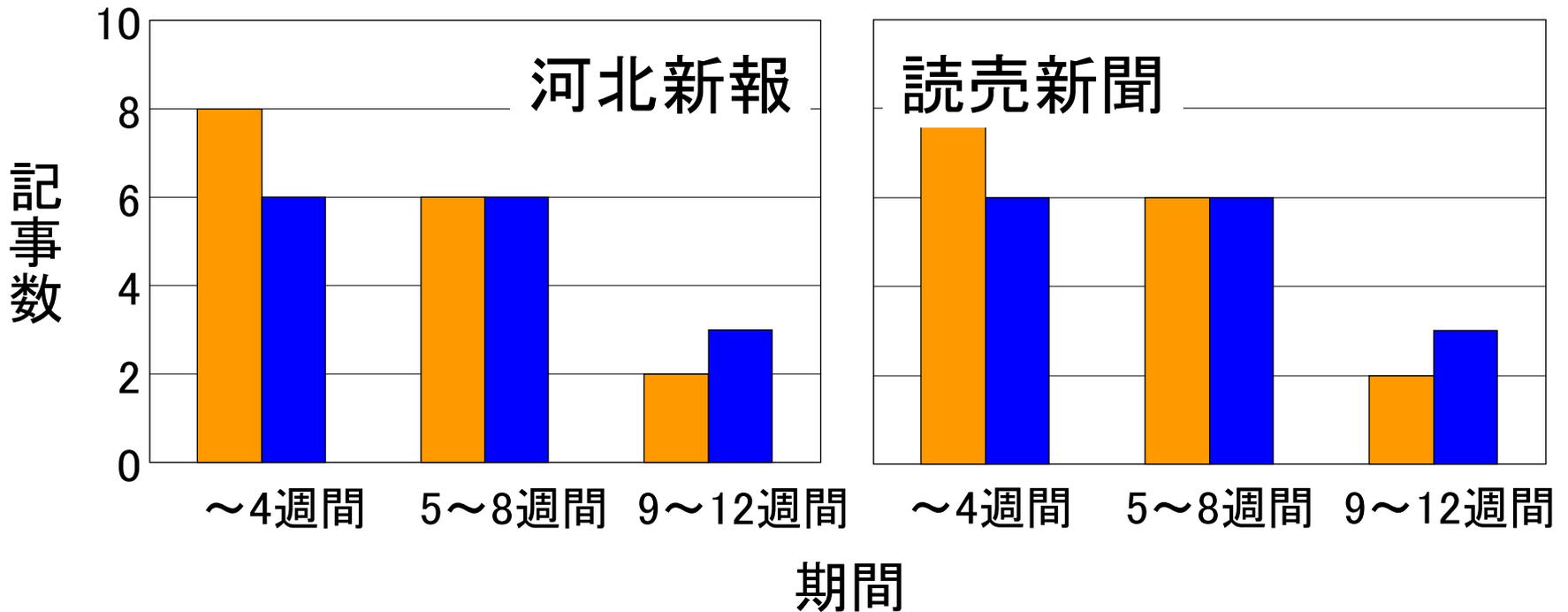
3月28日、西友が仙台12店舗で24時間営業開始。
(西友HP)

自粛



今回の特徴。主として東北以外での話題。

デマ



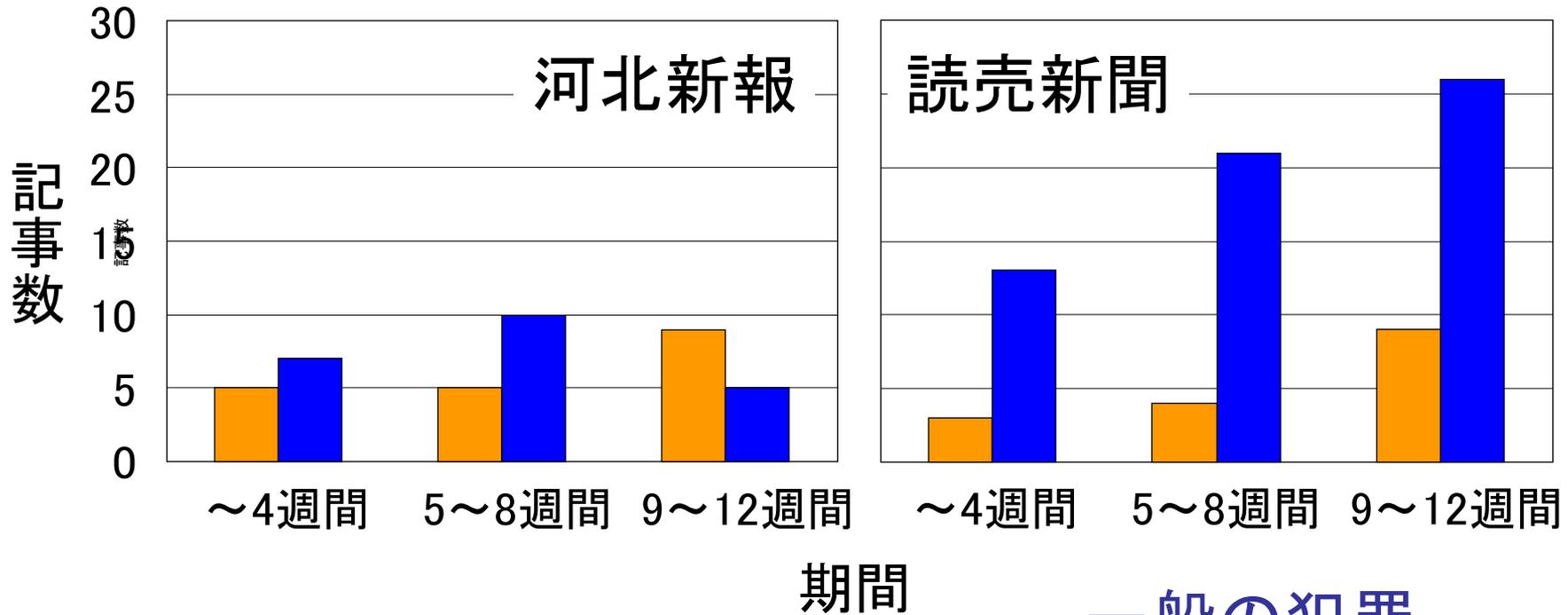
阪神大震災と同程度の記事数。時間と共に減少。

I山さんの日記より

3月15日(火)

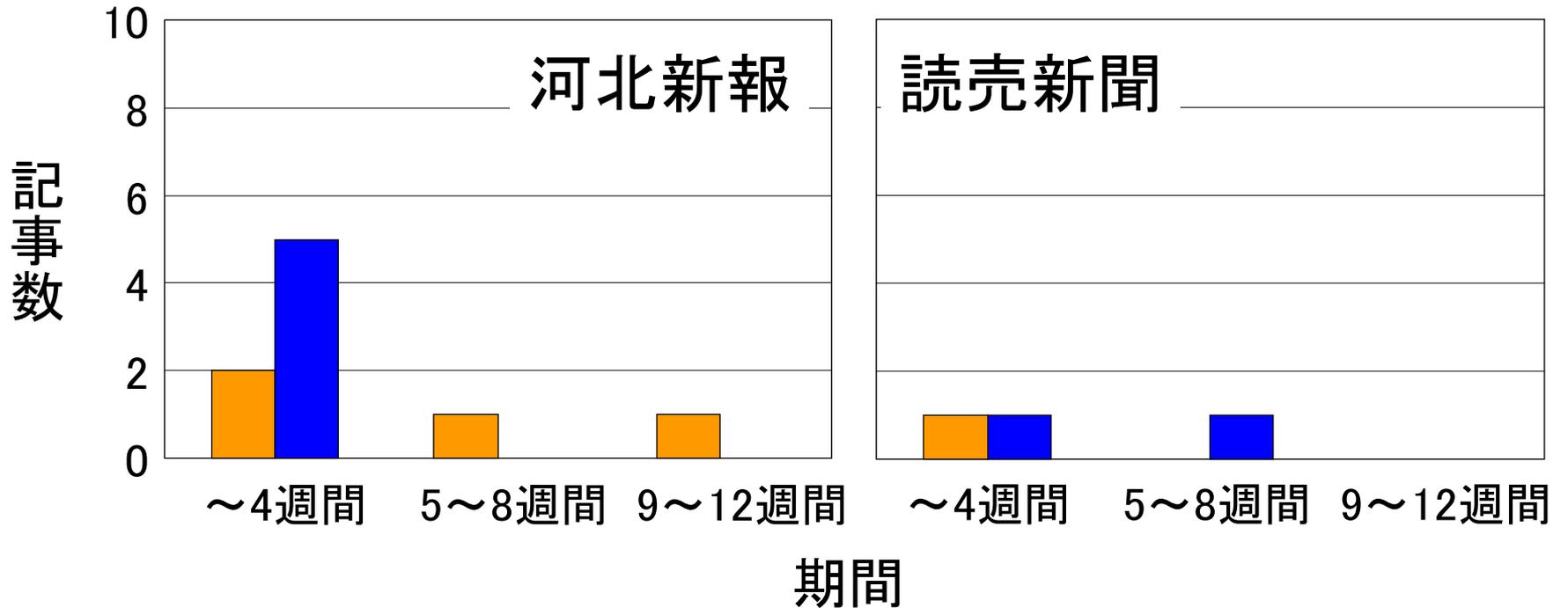
仙台市の友達からの転送メールで「仙台港コスモの火災で有害物質が雨と一緒に降って来るので体が雨に付着しないように気をつけてください」という趣旨のものが届く。文章の続きにある「なるべく多くの人に教えてください」という文言に引っかかりも感じ、自分は転送しないのと同時に友達にも**いたずらに混乱を生じさせる根拠不明のメール**である可能性を伝える。

犯罪



一般の犯罪
(記事中に「震災」)

略奪



ほとんど報道されていない。

仙台市内1～4月の治安情勢・前年との比較

	認知件数	増減	増減率
刑法犯計	3350	-302	-8.3
凶悪犯	21	2	10.5
粗暴犯	139	-13	-8.6
窃盗犯	2577	-87	-3.3
知能犯	100	-121	-54.8
風俗犯	21	-14	-40.0
その他	492	-69	-12.3

大震災以降1か月間の県内の犯罪情勢①

- ・刑法犯の発生件数：前年同期比249件減の1554件（1割以上の大幅減）。
- ・重要犯罪（殺人や強盗等）：7件減の8件。
←ガソリン不足・ライフライン寸断。人の動きが制約？
- ・重要窃盗犯（侵入盗等）：88件増の341件（震災発生から10日間に約9割が集中）。
- ・閉店中の食料品店などを狙った「出店荒し」：前年同期比87件増の124件。
- ・自転車盗：前年同期比3倍以上の45件。

大震災以降1か月間の県内の犯罪情勢②

東日本大震災で被災し、無人になった民家や店舗を狙った窃盗事件が震災後1か月間で34件(被害総額約1200万円相当)。摘発された事例はない。

- ・無人の店舗を狙う「出店荒らし」:12件
- ・避難で無人になった民家の「空き巣」:6件
- ・津波などで放置された乗用車の「車上狙い」:4件
- ・作業員が避難して無人になった工事現場から建設資材が盗まれたり、放置された乗用車の部品が盗まれたりするケースも。



4月17日スタート
 TBS系日曜よる9時

セブン-イレブンネットで
オリジナルグッズ
好評発売中!!

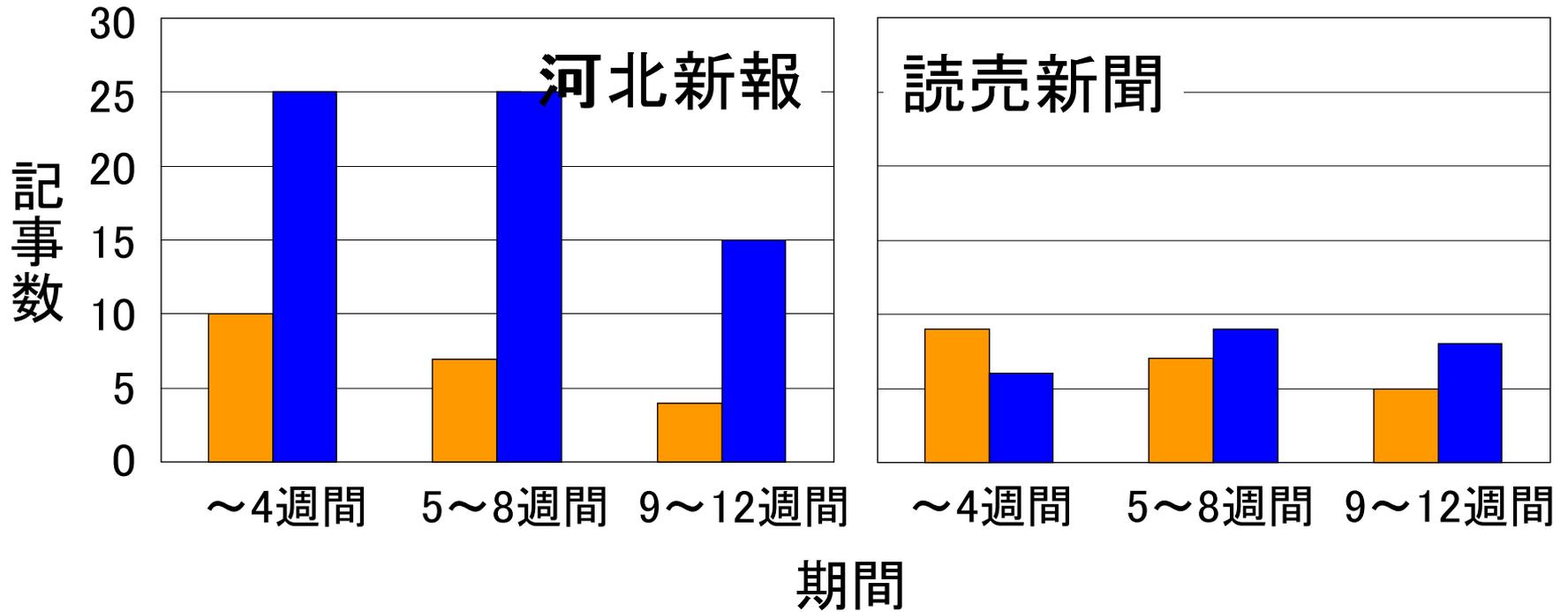
営業時間
 7:00 - 22:00

営業中

7-Eleven
 24時間営業
 年中無休
 全国展開



助け合い



河北では震災直後に多く報道されている

I山さんの日記より

3月13日(日)

ご近所のN井さんからの差し入れ・・・水(ポリタンク)、ご飯、お茶、ヨーグルト、梅干し、りんご、野菜ジュース

ご近所のI川さんからの差し入れ・・・鮭、みかん、りんご、バナナ、味噌汁、乾パン、お漬け物

3月15日(火)

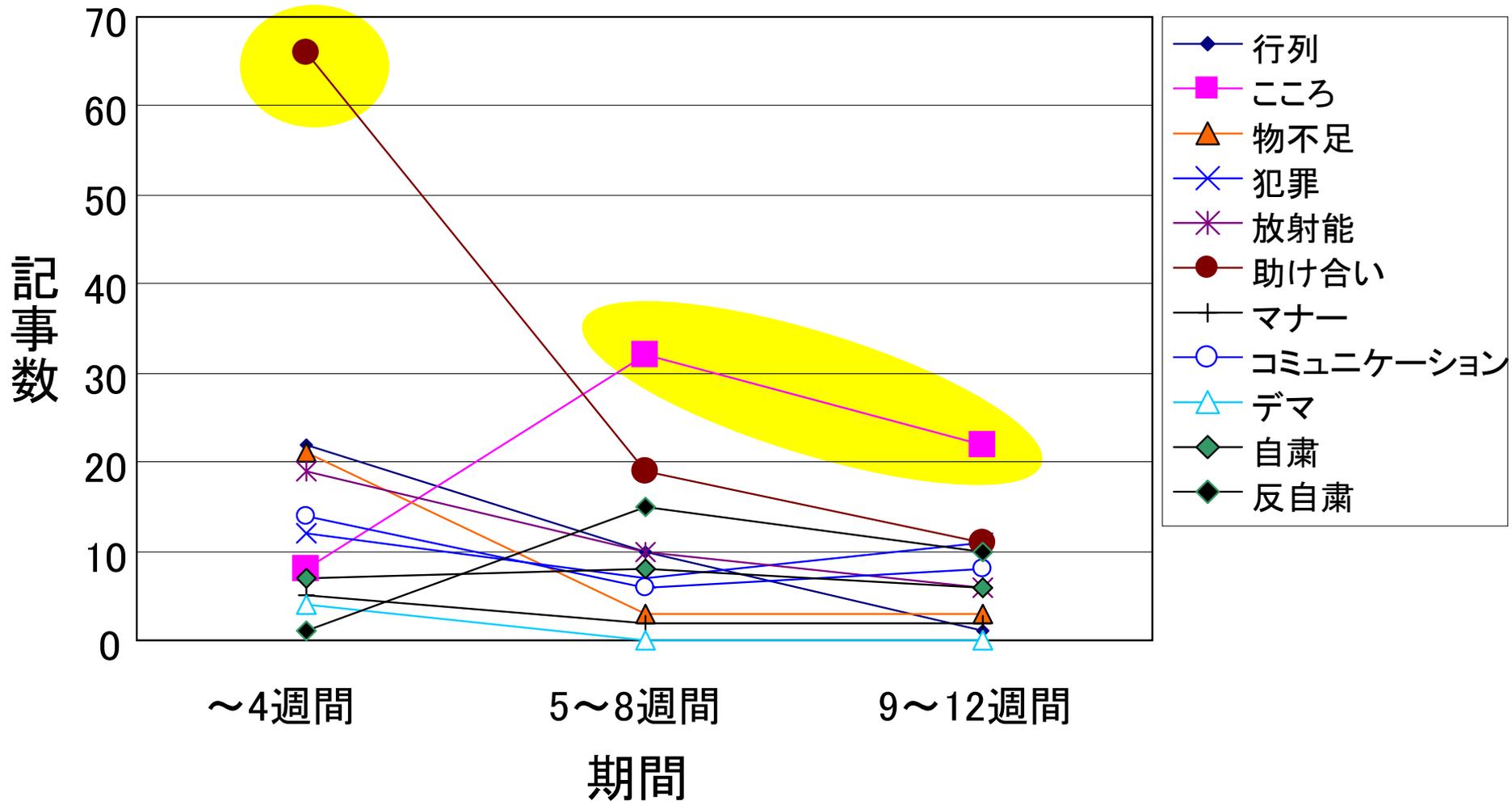
ご近所のN井さんより、食品館イトーが開店しているとの情報。行ってみたら長蛇の列。2時間並ぶ。・・・(略)・・・**普段どこの店舗でもなかなかない位の底値に、お店の思いやり**を強く感じる。

I垣さんの日記より

3/13

07:00	の実家に歩いて出発。女性に声をかけられる。 <u>食料、22軒も53</u> <u>車でおくるというけれど、近くなのでこわく</u>
10:00	実家に到着。全員の無事を確認!!

震災直後は助け合い, 1月後には心の問題が



河北新報を実際に読んで分類した結果

被災者の回復プロセス

英雄期：災害直後

自分や家族・近隣の人々の命や財産を守るために、危険をかえりみず、勇気ある行動をとる。

ハネムーン期（高揚期）：1週間～6ヶ月

劇的な災害体験を共にした被災者同士が強い連帯感で結ばれる。援助に希望を託しつつ、助け合う。被災地全体が温かいムード（高揚感）に包まれる。

幻滅期：2ヶ月～1・2年間

被災者の忍耐が限界に達し、援助の遅れ・行政の失策などへの不満が噴出。やり場のない怒りから喧嘩などのトラブルも起こりやすい。被災者が自分の生活の再建に追われるため、地域の連帯や共感が弱まる。

再建期：数年間

被災地に「日常」が戻り始め、生活の立て直しへの勇気を得る。地域づくりへの参加で自信回復。但し、復興から取り残されたり、精神的支えを失った人はストレスの多い生活が続く。

ハネムーン期から幻滅期に差し掛かっている今、
一層の支援が必要。
ここを素早く乗り越え、再建期に。

「復興の狼煙」ポスタープロジェクト

<http://fukkou-noroshi.jp/>

主催者の許可を得て転載



様々な想いを胸に秘めながら、前を向いて歩み始めようとする釜石市民。
彼らから感じた「人間の強さ」、そのままを伝えたいと願った盛岡の広告人。
苦しみながら悩みながら「今」を撮ることで答えを見つけようとした東京のカメラマン。

このプロジェクトは、そんなそれぞれの「想い」が重なって生まれました。

岩手の、内陸の人たちに、このメッセージを届けなければ。
その一心で、僕たちはこれまで自主制作を続けてきました。



：
(中略)



このポスターを見て何かを感じてくださった方々の想いが、
前を向き必死に生きようとする人々の明日への力となってくれること。
それがこのプロジェクトの唯一の目的であり、私たちからの切なる願いです。
このHPをご覧いただいた皆様に、心から感謝致します。